

7/22 18:35 開会 会議室 7・8

A-1 グループ

大塚ファシリテーター、平岡委員、嶋野委員、江口委員

※佐藤委員欠席 ※丸委員(書面提出)

議事録…木村

(施策：安心して生み育てることができる子育て支援)

出席職員：有本課長、加藤発達支援センター長、佐藤係長、喜多係長

大塚 事前質問について何かあれば

委員 事前質問の内容で、この事業(両親面談)は、事業という形ではなくても過去にやってきたのか、新たに始めたのか聞きたい、また、その実績について。

喜多 事業は、令和7年度から新たに始めたもの。妊婦相談は例年実施してきたが、妊婦さんだけでなくパートナーにも拡大したのが令和7年度から。実績は、R7年8月からスタートし対象49家庭中、23家庭がパートナー来てくれた。子育て講座については、2か月児、参加者69名、7か月児、89名、10か月児は9月から開始し、51名の参加。

委員 事業が進化していると捉えていいのか

喜多 町保健師がその部分に課題意識をもっているため、そういった理解でいる

委員 成果指標①、乳幼児健診アンケートの回答率について、健診に参加した方が、どれだけアンケートに答えているのか

喜多 健診は、1か月、4か月、10か月等実施し、95%を超える受診率、アンケートはその会場で書いてもらうため、基本的にはすべての家庭で答えてもらっていると把握している。

大塚 評価に移る。

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

委員 妥当、C評価

大塚 評価理由について伺う。

委員 理由は、成果指標に変動あるものの、前進していると捉えている

委員 理由は、いろんなことを新たに始めているので、前進していると捉える

委員 子育て中の不安な時期に行政と繋がれる、アウトリーチに近い、子育ての悩み、不安

を共有できる環境が整っていると思う。

委員 アンケート調査結果が高い水準を維持している。

大塚 今後の取り組みについて意見をいただきたい。

委員 事業が良く進んでいるので、今後も引き続き、働きかけを強化してほしい

委員 施策の達成状況②、成果指標②、ここがひっかかる。説明等でも、いろいろ施策に取り組み、一定の評価を得ているが、あくまでも成果指標②のとおり、町民全体に視点を置いている。そうすることで、評価時に、直接的な対象者とならない町民も含まれるため、達成が困難になり評価が落ちないか、それがあるがゆえに、「大きく前進した」に移れないなら、もったいない。子育てを実際にしている人に焦点を置いていいと思う。育児が楽しいと思える割合が微減となったのは、注視し、分析するべき。成果指標の見直しを考えてもいいと思う。

有本 成果指標2行目は議論になっている。「住民意識調査」なので、子育て中の方以外も対象にするかは課題認識を持っている。施策名にも掲げているとおり、安心して子育てができる環境を整える子育て支援施策であるなら、この数値を置くことも必要だと思う。他自治体の類似する質問では、50～60程度の目標値が散見される。芽室は高い方。子育てしている人もそうでない人も含め、どう見直すか、今後見極めていく。

委員 事務局に対する意見だが、この施策以外にも住民意識調査をもってくる施策が多い。調査の回答率自体低いなかで、その中から対象者の声で評価している。一方で、住民全体がどう思っているのか把握するために、対象者を絞り（無作為抽出？）アンケート配布した方以外にも、積極的にアンケートに答えてもらう取り組みも必要かと思う、より良い回答を得るために検討してほしい。

委員 地域全体が子育て施策の理解を深めるためにどうすればいいか、子育て団体と行政との意見交換の場などに参加して感じたことは、地域がもう少し具体的な支援像（イメージ）を描けると、何をすればいいか見えてくると思う。子育て中の悩みと町の支援メニューがマッチするとは限らない。どういう支援があるのか自分で調べるところまで行きつかない方も多くいるなかで、気軽に話せる地域の人の存在が大切、そういう場で、情報をきちんと提供できる、そのような人材が保育所・幼稚園・カフェなど拠点となる場にいることで、助かると思う。

有本 子育て世帯が訪れる場に、まちの情報を持っている人がいて、気軽に相談を受けたり、必要な情報を提供できる、そのような人材が、子育て世帯の生活空間にいて、安心感が増す、というご意見だと理解する。それは重要な視点であるため、参考にさせてもらう。

(施策：子育て環境の充実)

大塚 質問のある方は発言してほしい。

委員 保護者アンケート、回答の割合を教えてください

佐藤 保護者アンケートは、保育所が現況届を全児童分行う際に、アンケートを同封している、回収率が100%になるように工夫している。

大塚 他にいなければ、評価の確認に移る。発言をお願いしたい。

委員 妥当、C評価。

委員 妥当、C評価。理由は、評価結果の下がった部分も分析して改善に繋げているし、国の施策を考慮し事業を進めている。

委員 妥当、C評価。子どもセンターの平日のおやつ持参、人材不足の解消に向けた就職説明会等、丁寧に事業を進めている。この時代に、説明会5名参加は、とても成果を上げているといえる。町内全体の子育て環境の充実が図られている。

委員 妥当、C評価。アンケート調査結果が高い水準を維持している。

大塚 今後の取り組みについて意見のある方はいるか

委員 施策方針に、保護者に教育情報の円滑な提供を促進するとある。多様な情報をネットで入手し家庭で解決するところもある、しかし、課題は多様化しているのが現状で、最新の知見に基づき、語り合える場で、保護者同士が学び合えることが理想だと思う。

有本 教育情報、学校に関する情報が、各家庭への講座などの機会を通じて行き渡り、子どもの自尊感情を育くために、どういう支援が必要なのか検証することが重要、自分とは違う家庭を知ることによって自己の価値観を変えられる、違いに触れることが非常に重要、子育て支援全体で考えていきたい。

委員 評価に関係はないが、病児保育の利用状況は把握しているか

佐藤 21名(R7実績)

委員 意見として、この辺が難しいと考えている。共働き世帯にとって、病児保育は欠かせない制度ではあるが、理想は子供が病気のときに親がすぐ休める職場環境だと思う。子どもの立場では大事、病児保育の利用を強く推し進めることで、利用頻度は上がるが、一方で子どもの感情が置いて行かれやすい。行政から職場への働き掛け、休みやすい環境を整える啓発など、制度運用と労働環境のバランスを取りながら呼び掛け

てほしい。

有本 子供の意見を聞くことは、部署として共通のテーマ、子どもがどうしたいか聞きながらルールを決めていく、町が事業を進めていく一方で、考えていなければいけない課題であると思う。

※30 分程度 休憩

19:50 再開

出席職員：森課長、有本課長、吉川補佐、塩原係長、喜多係長

（施策：生涯を通じた健康づくり）

大塚 施策（生涯を通じた健康づくり）に入る。質問ある人はいるか。

委員 事前質問について、健診を継続して受けている方が多い印象、健診可能な人数、受診者数を増やすことはできるのか

吉川 現在、健診を受けている方以外にも、利用枠はある。受診数が増えても対応可能。

委員 より受診者数を増やす方法を検討してほしい。健診は早期発見・早期治療につながる大切な手段だと思う。また、今年3月に、病院の地域医療シンポジウムを受講し、名寄の実例を見た。経過をみると市立病院では心不全の予後が悪く、ICTで救っていると聞く。調べてみると心不全が最近増えていることを知った。国の統計情報では女性が急激に増えている。芽室はどうか、心不全の方増えてきている傾向にあるのか。今後の課題ではないか、これまで生活習慣病を中心に注目し対策してきたが、心不全が増えていくと、見落としかねない。どう考えるか。もう少し統計を細かく取れないか、ICD-10を細分化して統計取れないか、

吉川 疾病分類で心不全がどれくらいいるのか、統計などはない。

委員 これから注目してもらう余地はあるのか

吉川 国が注目していることもあり、高齢化による心機能の低下などは、芽室町も起こりえるもの、心不全は確かに増えていると感じている。一方で、その根本には、生活習慣病が影響するため、そこの早期対策を講じることが重要と思う。保健指導等でも支援していきたい。心不全ももちろん健康を損なうリスクの高い病気だが、一つの疾患に注目せず、広い視点を持ち事業展開していきたい。

委員 心不全を見落とさないでほしい。健診では、心不全のリスクのある人がどれくらいいるか把握したことはあるのか、

吉川 心電図のデータは把握しているので、通常と異なる場合は、受診勧奨し、医療に結び付き、それが心不全の早期発見につながったこともある。

委員 引き続き、念頭に置いてもらいたい。

大塚 では、評価に移る。

- 委員 妥当でない、C 評価。目標値に達していないが、特定健診の受診率の伸び、勧奨方法や申込方法の工夫がされている、そういう観点で前進でいいと思う。
- 委員 妥当でない、C 評価。健診受診率をあげる努力をしていることで、少しずつ上がってきている
- 委員 妥当でない、C 評価。受診率の向上が難しいなかで、目標値には至っていないものの、工夫が見られる
- 委員 妥当、D 評価。アンケート調査結果が計画策定時をおおむね維持しているため

大塚 今後の取り組みについて意見はあるか

委員 アプリの活用の広がり期待したい。情報提供ツールを持つことで、その人の行動変容を起こせる。同時に、今後も、アプリの導入サポートを継続してもらいたい

森 昨年も話題に上がり、楽しみながらできることも必要だと意見をもらった。担当として後押ししていただいたと感じる。かなりの準備をしてきたこともあり、スタートは思いのほか良い感触。導入して終わらず、続けやすいものにしていきたい、

委員 芽室に総合病院があるメリットとして、高齢になったときの安心感は大きい。免許証がなくてもコミバスがあり通院できて、健康状態を見てくれ。医療情報を他機関とも共有できていることの安心感は強い。その活動をより進めて、安心して住み続け、病院に通いやすい環境を作ってほしい。特に、働き盛りの人に絞り、健康意識を高められるように取り組んでほしい。

森 同規模の自治体でも町内医療機関の対応にばらつきはある。芽室町は、開業クリニックも予防的健診に理解してくれるし、積極的に協力してくれる、そういう意味でも町民の健康保持に努めやすい環境ではあると認識している、歯科医院も薬局薬剤師も医療資源として協力的であるため、健康意識の低い世代をターゲットに注目し、施策が伝わりやすいように取り組む。

委員 地域包括ケアシステムを念頭に置いた事業を進めてほしい

森 公立芽室病院が強く進めてくれている。主にそのシステムは、高齢の人が安心して住み続けられ、望む生活の形を地域全体で支えていくことが理想。当然、障がいがあったとしても、だれでも望む暮らしが続けられるように包括的ケアをしていく。課で連携し体制を強化していくことの必要性を改めて認識したところ。

20 : 10 閉会